

宿題に関する会員の意見

青森市氏（北海道立教育研究所）

前回のまとまりは農業経済学のプロパ  
ーに属するから、これを社会学の視野で  
取扱う場合の観点か問題になる。前のま  
とめの焦点が明かでない。

1. 農地の問題を新権（所有権）に  
限定して考えるのが。

2. 村落社会を地主と小作に限定して  
考えるのが。

3. 農民の生活構造の分析まで進み、  
改革が被褥の生活水準にどんな影響  
を与えたかまで考えるのが。

小生の意見としては次の諸点を考慮し  
てほしいと思う。

1. 農地権の分析（戦前と戦後）

2. 農業協同組合の構造と機能の分析

3. 農地改革による農民のステータス  
の変化とパースナリティの問題、

4. 民主化をはじめ各条件の構造（封建  
的残存の除去）

5. 農地改革による村落社会構造と結  
核の除去。

結核の除去。

来るべき研究会にはこのテーマの発表  
者（テーマをいくつかに分けてそれぞれ発  
表する）を定め、その発表について研究会  
振り、討議する。そして各パートの討議内  
容を全体に発表するように望む。

山本 豊氏（大阪市立大学）

紀州村落研究会と宿題

(1) 純農村の古い和歌山県の村落は農地  
改革の影響をうける率が少いので、そ  
の意味で問題にするのが意味がある。

指羅委員会の方向と宿題は同じだろう  
が、アプロロシは全く地味からかう。

(2) それにも拘らず変化をうけている。  
それは農地改革をも含む戦後の一般的  
変化の影響としてとらえるべきでは行いか  
その中において早稲比農地改革の影響の  
み切りは反して考える事は困難である。  
だから一応よく解釈して進むのが妥当  
である。

(3) 宿題の概念に属する率であるが、漢  
林や山村を別としても、農地改革は主  
として農民のみに所属する率である  
に對し、現実の村落は農民のみによつ  
て構成されてはいない。特に都市に近い  
村落では非農家、通勤人も含み農村に  
おいて被褥が主体的役割を果たして  
も村落構造でかなり大きな役割を担つて  
いる。

この非農家、非農者と農家、農民との  
関係は村落の立場から観察出来る。

関係は村落の立場から観察出来る。

都市化の進んだ地域では大きな問題である。  
(4) 本県の農地関係には必ずしも非農家村落の  
問題がからまっている。これをいかに考  
えるかも特殊の地域では重要な問題である。  
紀州村落研究会（会員四名）の以上の考  
え方は一般的存問題を具体化した場合に本  
て来る疑問点であり、必ずしも指羅研究会  
に對する批判ではない。研究会としては各  
人が丈夫独自の調査計画を持つので、一応  
その計画の範囲内で宿題との関連を取上げ  
るし、余裕があれば宿題と特に深い関係あ  
る村落の調査をしたい。